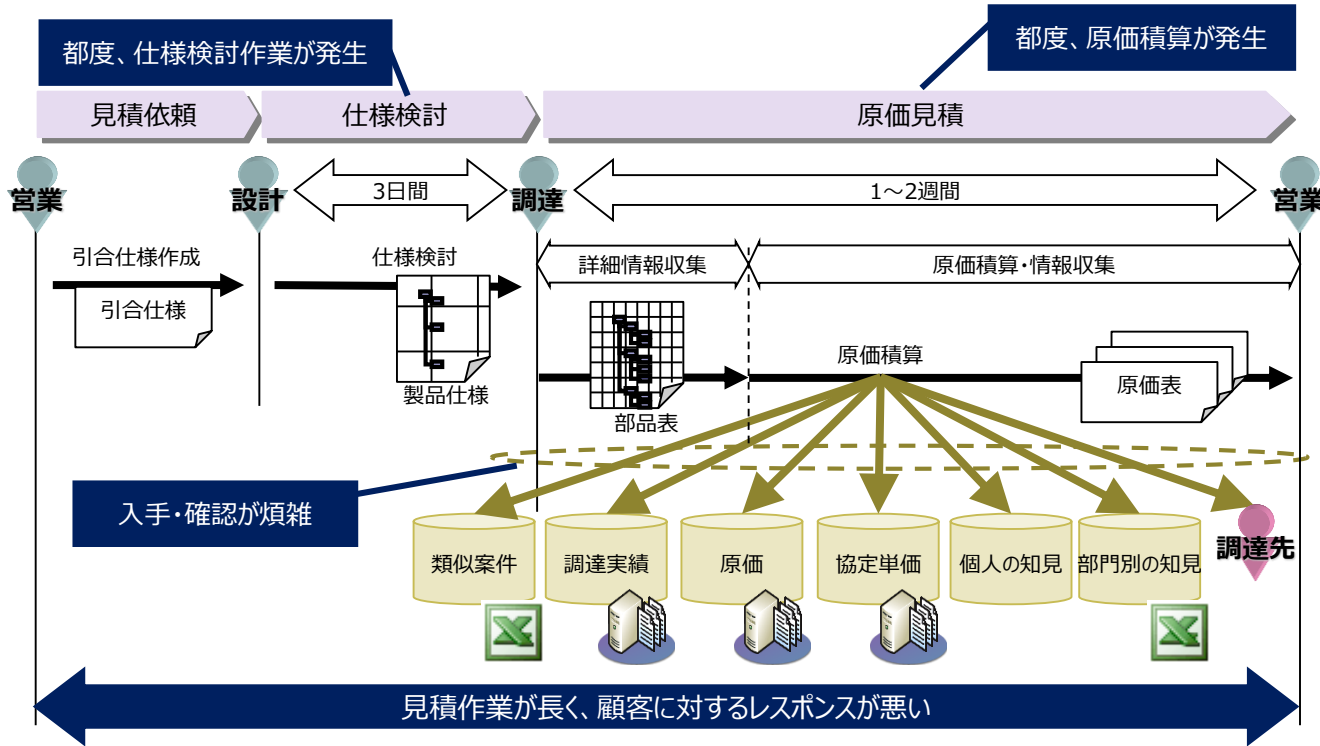


見積業務改善（見積情報モジュール化）

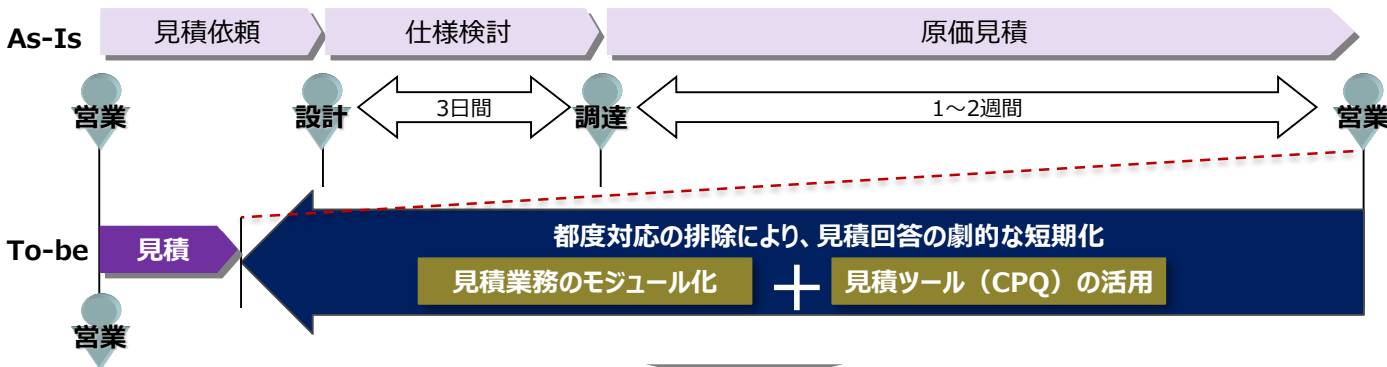
見積業務における課題（個別受注型生産業）

見積の都度対応している仕様検討/原価見積業務が見積回答リードタイムの悪化を招き、見積提示タイミングで他社に負けるケースが多く見受けられます。結果、顧客社内決裁では他社見積もりが使われ、発注先変更などハードルが上がり、失注が多発しています。



目指す姿（見積業務モジュール化後）

都度対応する作業を事前実施とし、見積回答を劇的に短期化、圧倒的なスピードを実現します。



期待効果 見積回答の短期化といった見積業務に対する直接的な改善効果だけでなく、定着化および取り組みの推進により、標準化された売り方が「モノ」まで反映し、全社的な効果まで期待できます。

1. 見積回答リードタイムの短縮

2. リアルタイム見積による訴求力向上

3. 属人的・重複作業排除による作業効率・精度の向上

4. 標準部品使用率向上による設計工数削減

5. スケールメリットの享受（価格交渉力の向上）

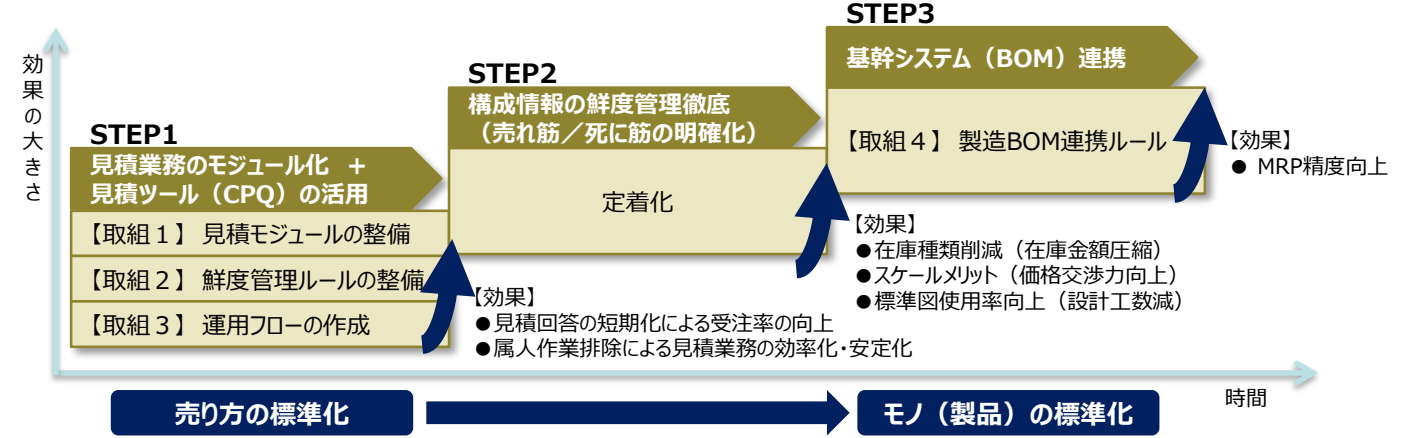
取組みの進め方

見積業務のモジュール化、すなわち「売り方の標準化」の実現に向け、大きく以下 4 つの取り組みを進めます。各取り組みは、見積ツール（CPQ）の活用を前提として進めます。

取組 1 見積モジュールの整備（見積BOMの定義）	見積で使用する構成情報の事前整備が必須となるため、まずどの顧客要求にどの機能で対応するか？を標準機能・個別機能として明確化します。同時に、見積モジュールを管理する器となる見積ツール（CPQ）の選定も進めます。
取組 2 見積BOM：鮮度管理ルールの整備	顧客の要求事項にマッチした製品価値が提示可能となるよう、市場要求・顧客潜在ニーズの反映および過剰品質の防止の観点を盛り込んだ鮮度管理ルールを整備します。
取組 3 モジュールを活用した運用フローの作成	鮮度管理徹底のため、標準機能整備プロセスを盛り込んだ運用フローを設計します。標準機能の整備を含め、標準を用いた見積、受注後の製造指示まで含めた運用フローが必要です。
取組 4 実構成情報（製造BOM）との連携ルールを定義	実構成情報（設計・製造BOM）との連携具体化として、BOM間の関連ルールの整備、製品仕様変更時の対応ルール、パイプライン管理との連携ルールを整備します。

効果創出シナリオ

見積業務のモジュール化による営業力の向上だけでなく、売り方の標準化からモノ（製品）の標準化までを段階的に進めることで、より大きな効果を創出します。



Why QUNIE ?

QUNIEのコンサルタントは、豊富な経験・知識を背景に、効果創出のご支援をいたします。

多様な背景を持ったコンサルタント	コンサルティング・事業実行・IT導入と多様な背景を持ったコンサルタントが、お客様の課題・要求事項を漏れなく正確に把握し効果創出へのご支援いたします。
様々なソリューションに対応	ソリューションベンダーに縛られることなく、Oracle、Salesforceなど、様々な選択肢の中からお客様に最適なCPQソリューションをご提案いたします。
全社的な取り組みへ対応	見積ツールの導入だけでなく、売り方の標準化からモノの標準化まで全社的な取り組みとして広範囲なご支援が可能です。



〒100-8101 東京都千代田区大手町2-3-2 大手町プレイス イーストタワー11F
TEL: 03(3517)2292 FAX: 03(3517)2293
URL: <https://www.qunie.com> E-MAIL: info@qunie.com

NTT Data Trusted Global Innovator
NTT DATA Group